
枝萌え 第六章「枝(止まり木)」

八千代

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

枝萌え 第六章「枝（止まり木）」

【Zコード】

Z0428BA

【作者名】

八千代

【あらすじ】

枝萌えシリーズ、第六章。
2011年最後の新作です。

「枝（止まり木）」

病院の中庭にある木。

放射状に広げるは、白衣のように白き枝。

三角筋から上腕二頭筋に至る、すらりと伸びた流線型の如き枝はまるで男性の二の腕のようなシルエット。アーチ構成に無駄が無く、すっきりと逞しい。

体幹を伝う濃い緑の薦の細かな根が多少浮足立つては、その木の肌が余りにも温かいからかもしれない。

樹皮にそっと手を這わすと、感じるのは滑らかなる温かみ。眼鏡のレンズの向こうに見る温情。微笑に似た温もり。

枝を眺めていたならば、想起するのは自分の担当医。袖をまくった白衣から伸びる左腕には Paul Smith の時計、

水色の文字盤が表しているのはきっと小さな海。

堂々とした足取りで、先生は温む病棟の中をかきわけるように歩いていく。

脚の捌きで翻る白衣の裾は余りにもおおらかで、私はその背中や仕草、口ぶりに安心感を見出だす。

時折白衣の胸ポケットに止められている製薬会社のマスク Gott 付きボールペン。

三色カラーのロナセンバーが、止まり木で休養する小鳥のようにも思え、そんなところに可愛らしい小鳥を止めている先生の若々しさを、同世代にも関わらず、私は素直に羨ましく思う。

同時に、薬指に光る指輪を見てため息をつく。

そんな私に先生はこうおっしゃる。

「今日はどうされましたか？」

どうもされない。

ロナセンバードに私はなりたい。

一時的かもしけないが止まり木を見つけた。

そんな入院生活もめぐれていって、もうすぐ終息だ。

年が明けてしばらくしたら、私は先生の元から巣立つことになる。

- fin -

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0428ba/>

枝萌え 第六章「枝(止まり木)」

2011年12月31日22時46分発行